

ピース・ウイング長崎 会報

へいわ

121号



■財団法人長崎平和推進協会 〒852-8117 長崎市平野町7番8号 ■電話(095)844-9922 FAX(095)844-9961

<http://www.peace-wing-n.or.jp>

■平成21年度事業計画・予算 ■アジアピースネットワーク「長崎・広島青年シンポジウム」

■財団設立25周年記念事業のお知らせ ■堂尾みね子氏遺稿集発刊 ■TOPICS



アジア青年平和交流事業参加者を中心に発足したアジアピースネットワークの主催による長崎と広島の若者同士の連携をテーマにした「長崎・広島青年シンポジウム」が開催されました

平成21年3月14日(土) 追悼平和祈念館交流ラウンジにて

今年度の事業計画をお知らせします

I 一般事業

37,718千円（前年度34,015千円）

1 発刊事業 1,995千円（前年度2,002千円）

- (1) 会報「へいわ」の発行（年4回）
事業活動をはじめ、平和に関する情報をタイムリーにお届けします。
- (2) ブックレット「平和のあゆみ」の発行（年1回）
年間を通じた平和意識高揚のためのさまざまな取り組みや、活動実績などを総合して1冊のブックレットにまとめます。
- (3) その他の広報活動
情報ボックスの発行、ホームページの運営を通じて、協会の理念や活動状況を周知します。

2 啓発活動事業 1,398千円（前年度1,420千円）

- (1) 被爆体験講話
被爆の実相を広く後世に伝えるため、修学旅行生や市内の小・中学生などを対象に被爆体験講話を実施します。
- (2) ピースネット 写真参照
遠方や県内離島の小・中学生を対象にインターネット会議システムを利用した平和学習を実施します。
- (3) 設立記念講演会
平和問題への認識を深めるため、協会設立を記念した講演会を開催します。
- (4) 国連軍縮週間記念行事
国連軍縮週間に若い人たちが参加しやすい記念行事を催し、平和意識の啓発を行います。



ピースネット（山形市立第一小学校）

3 調査研究事業 100千円（前年度200千円）

平和関連の会議やシンポジウムなどに参加し、情報収集や関係機関との交流を図ります。

4 育成事業 5,540千円（前年度6,170千円）

- (1) 部会活動（継承部会、写真資料調査部会 写真参照、国際交流部会、音楽部会）
会員が市民とともに、平和意識の高揚を図るためのさまざまな分野の活動を行います。
- (2) アジア青年平和交流
相手の国の文化や歴史を学び、現地の人々との交流を通じて平和意識の向上を図るため、若者をアジア諸国に派遣します。
- (3) ボランティア活動支援
次世代の平和活動の担い手となる学生ボランティアや外国語ボランティアの活動を支援し、平和認識の視点を醸成します。
- (4) 平和事業支援
協会の活動趣旨と一致する音楽会や講演会、シンポジウム、外国人弁論大会などの事業を支援し、平和関連の事業を推進します。
- (5) 秋月グラント
被爆体験の継承や平和意識高揚のための事業を実施する団体にその事業費用を助成します。
- (6) 平和案内人派遣
おもに観光客を対象に原爆関連の碑めぐりや原爆資料館、祈念館などのガイドとして平和案内人を派遣します。



原爆写真展（時津町役場）

5 推進対策事業

450千円（前年度481千円）

広報、事業推進、財務・組織の各委員会を開催し、各種事業について協議します。

6 25周年記念事業

2,530千円（前年度計上なし）

平成21年4月1日に財団設立25周年を迎えるにあたり、記念式典などを開催します。

II 受託事業

254,446千円（前年度290,656千円）

長崎市や国から以下の業務の委託を受けて事業を行います。

- 1 長崎原爆資料館観覧料徴収・受付案内業務
- 2 長崎原爆資料館図書資料整理業務
- 3 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運營業務

III 収益事業

25,000千円（前年度25,000千円）

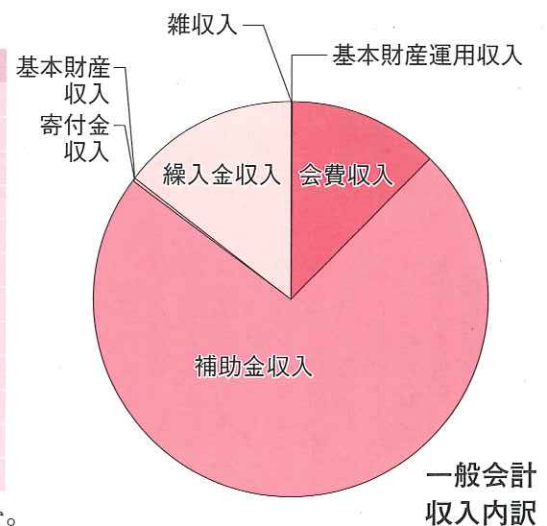
原爆や平和に関する図書や平和意識を啓発する物品を原爆資料館で販売します。

平成21年度収支予算

収入

(単位 千円)

	科目	本年度	前年度	比較
一般会計	基本財産運用収入	30	24	6
	会費収入	4,651	4,471	180
	補助金収入	27,536	27,718	△182
	寄付金収入	100	1	99
	基本財産収入	1	1	0
	繰入金収入	5,500	1,800	3,700
	雑収入	1	1	0
	一般会計 合計	37,819	34,016	3,803
特別会計	受託事業	254,446	290,656	△36,210
	収益事業	25,000	25,000	0
	特別会計 合計	279,446	315,656	△36,210
	収入合計	317,265	349,672	△32,407



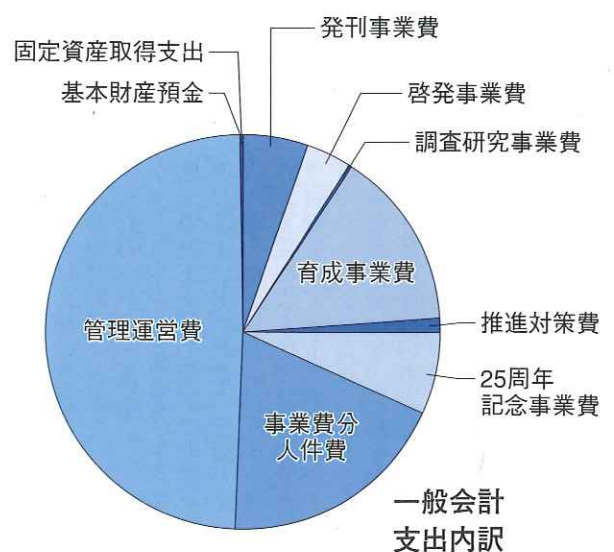
*特別会計(収益事業)から一般会計への繰入金収入5,500千円を含む。

一般会計収入内訳

支出

(単位 千円)

	科目	本年度	前年度	比較
一般会計	発刊事業費	1,995	2,002	△7
	啓発事業費	1,398	1,420	△22
	調査研究事業費	100	200	△100
	育成事業費	5,540	6,170	△630
	推進対策費	450	481	△31
	25周年記念事業費	2,530	0	2,530
	事業費分人件費	7,120	0	7,120
	管理運営費(管理部門人件費含む)	18,585	23,742	△5,157
	基本財産預金	1	1	0
	固定資産取得支出	100	0	100
	一般会計 合計	37,819	34,016	3,803
	特別会計	受託事業	254,446	290,656
収益事業		28,000	25,000	3,000
特別会計 合計		282,446	315,656	△33,210
	支出合計	320,265	349,672	△29,407



*特別会計(収益事業)から一般会計への繰入金支出5,500千円を含む。

一般会計支出内訳

アジアピースネットワーク（APN）主催

「長崎・広島青年シンポジウム」が開催される

リーパー理事長講演要旨

アジアピースネットワーク主催のこの歴史のかつ大切な行事に参加できることを大変光栄に思います。

アジアピースネットワークは、10年後20年後には、世界で一番重要な運動になる可能性を十分に秘めていると考えています。なぜなら、これからの世界においては、アジア、特にアジアの若者、そしてアジアにおける平和が、人類の将来を決めることになるかもしれないからです。

今、アメリカの帝国が崩壊を始めた。ソ連の崩壊後、アメリカは世界のボスになろうとしましたが、それが失敗に終わろうとしています。また、白人による帝国も同じように終わろうとしています。数十年後には、ヨーロッパ、アメリカからアジアに世界の力が移り、大きな転換期を迎えるでしょう。

しかしながら、歴史的に見ると、このような帝国の崩壊には暴力が伴います。第一次、第二次世界大戦もそうでした。アメリカ帝国、ヨーロッパ帝国、白人の帝国が終わろうとしている現状について、広島市の秋葉市長は「今はもう第二次世界大戦の戦後ではなく、第三次世界大戦の戦前である。」と言っておられます。

それに加えて、石油の価格は今後どんどん上がっていくでしょう。他

の資源も同様です。全世界の国が発展していくにつれてそのような資源を欲しがるとなり、資源確保のための競争が激しくなってきたいます。また、貧富の差の問題、環境破壊の問題など我々の生き方そのものを根本的に変えないといけない時期になってきました。

この問題をどのように解決するかについては、大きく分けて、暴力を使って解決するのか、または平和的に解決するのかの二つしかありません。今の世の中を見ると、暴力で物事を決めようとするが増えています。近いうちに北朝鮮がミサイルの発射実験を行うでしょうが、その時、世界はどう反応するのでしょうか。北朝鮮を攻撃するのでしようか。それは非常に危険な瞬間で、戦争によって解決しようとするのか、国連や条約、交渉を通じて問題を解決しようとするのか、世界はその分かれ道に立っています。

このことは、核兵器についても同様で、2010年のNPT（核不拡散条約）再検討会議で人類が核兵器を廃絶するののか、あるいは多くの国が保有するようになるののか、その分かれ道となるでしょう。この2、3年で、核軍縮への大きな転換がなければ、本場に多くの国が保有するよ

うになります。そして、もし、多くの国が核兵器を保有するようになれば使用されるのは時間の問題でしょう。さらに、アルカイダなど国ではない富のない人たちが核兵器を持ちます。そのような人たちが核兵器を持つようになったら、富を持つ人々たちによって作られた世の中のシステムを破壊するために核兵器を使うでしょう。

それを止めるためには、広島と長崎の協力が一番大事だと思います。なぜ大事かというと、世界が「戦争文化」を卒業して「平和文化」に移っていくためには、根本的なところで競争から協力への大きなシフトが必要で、競争そのものを否定しているわけではなく、また、競争が完全になくなることはありませんが、今の競争の仕方は非常に危険すぎます。残念ながら、現状では、平和を愛する人たちが協力が不足しているようです。日本だけでなく、アメリカでもヨーロッパでも同様です。この状況を直さないといけないとたくさんの方が思っています。

ただ、核兵器に関して言えば、広島と長崎はすでに「平和市長会議」という形で協力しています。この平和市長会議が「2020ビジョン」（核兵器廃絶のための緊急行動）を提唱し、核兵器廃絶運動を進めています。広島と長崎がもっと協力して

一生懸命取り組んでいく必要がありますが、この仕組みを使って、核兵器をコントロールできるのではないかと考えています。

しかし、いかに核兵器をコントロールしても、また、地雷、クラスター爆弾や毒ガスなどをコントロールしても、根本的には不十分で、我々は戦争そのものを放棄しなければなりません。我々は「宇宙船地球号」に乗船している仲間であり、みんな協力してはじめて我々の環境を保つことができます。

このことに対する理解はまだまだ足りないのですが、この平和的、協力的な考え方を強めるために、広島と長崎だけでなく、マレーシア、シンガポール、インドネシア、韓国つまりアジアが非常に重要になってきます。広島、長崎は原爆については発言する権利がありますが、戦争を止めようというメッセージになると広島、長崎だけでは不十分です。このアジアの国々が一緒になってメッセージを伝えないと説得力がありません。

したがって、このアジアピースネットワークは何よりも大切だと思っています。アジアは世界をリードします。しかし、暴力を使ってリードするのは、平和的にリードするのが重要になります。その意味で、今回のアジアピースネットワーク主催のシンポジウムは、アジアの国々の若者が出て、平和を保つためにどう動けばいいのかということについて議論するための非常に有意義なイベントだと思っています。

今回のシンポジウムのパネリストの皆さんに感想文をお寄せいただきましたので、ご紹介いたします。

アジアピースネット ワーク(APN)の シンポジウムに 参加して

長崎外国語大学4年

王 藝潼さん
(ワン イートン)

私は中国山東省の省都である済南市という町に生まれ育ちました。高校を卒業後来日して、長野の短大で日本語を学びました。そして、四年の大学は長崎に進学することになりました。長崎に住んでいる間にずっと前から訪ねてみたかった原爆資料館にも行きました。

その後、あの日に原爆資料館で目にした衝撃的な映像を思い出すたびに、心の痛みを感じます。平和な社会を築くために何か自分でできることはないのだろうかと思い、私は勇気を出して長崎平和推進協会を訪ねました。その時、今回のシンポジウムのことを紹介していただき、私はそのメンバーの一人として、参加することを決心しました。

APNのメンバーの皆さんは平和活動に興味を持った私と同世代の若者です。皆さんは、ずっと平和活動

に携わってきて、日本だけではなく海外でも経験を豊富に積んできた方ばかりでした。その中には海外に留学し、また現地でボランティア活動された方もいます。高校生平和大使を務めた方もいます。そんな素晴らしい方々たちと接して、知識や経験を分かち合っていて、思わず心を引きつけられました。

ともに過ごした3日間、スタッフの皆さんの努力によって、今回のシンポジウムは円滑に終わりました。また、シンポジウムだけでなく皆さんと一緒に原爆資料館を見学したり、平和案内人のご案内で被爆建造物などを見学したり、被爆者の講話を伺ったりすることもできました。

シンポジウムにおけるパネルディスカッションを通して、広島若者の初めて意見を交換しました。連携の重要性と必要性をお互い認識して、両都市の友好的な交流を通じて、相互理解を深めることができました。これは、被爆地同士の連携の第一歩を踏み出したことの証ではないだろうかと思えます。これから力を合わせて長崎、広島から全国に活動を広げ、やがて世界に発信するという大きな目標に近づく第一歩となったに違いありません。

今回のシンポジウムで私は大きく成長したと感じます。戦争は世界の大惨事です。戦争は必ず負の遺産をもたらします。戦争が人々にもたらした多大な痛みは国や人種を問わず、人類共通の痛みです。きっかけはど

うあれ、戦争自体はあくまで愚かな行為であります。人類や全てにもたらす計り知れないほど悲惨な結果を思うと、戦争を凶つた人、戦争を行つた人を免罪にすることはできないと痛々しく思いました。また、これから自分にかかる課題を、肩に重く感じました。

最後にAPNのメンバーや長崎平和推進協会の皆さん、広島の方など携わった全ての関係者に感謝の気持ちを表したいと思えます。ありがとうございました。

小さな、しかし 確実な第一歩

財団法人広島平和文化センター

平尾 順平さん

今回、アジアピースネットワーク(APN)の招待で、学生から社会人まで6名が広島から長崎を訪問させて頂きました。訪問の第一の目的であるシンポジウムでのプレゼンテーション、またその後のディスカッションに向け、出発前日の夜中まで、広島チーム全員で議論を重ねました。各々が日々平和に関する活動に携わる者であり、だからこそ想いもこだわりも人一倍強いものであったため、正直なところチーム全体の意見としてまとめ切れていない部分もあったと思います。しかし、シンポジウム当日はそれぞれが実際

の経験を踏まえ、「自分の言葉」で想いを伝えました。長崎側のパネリスト、また会場にいらつしやつたみなさんと「理解し合おう」という雰囲気が生まれたのではないかと思います。今回のシンポジウムのテーマである「連携」は、こうして顔を合せて言葉を交わすことから始まるのだな、と改めて感じました。

私たちの世代は64年前の惨劇を経験したわけではありません。そんな私たちが「継承」のため、「平和」な世界の実現のためにできることは何か？ このような場を設定して頂いたのでおかげで、互いに議論を深めあい、私たちの世代が担っている責任について改めて考えることができました。

今回、APNの方々、そして財団法人長崎平和推進協会の方々には、事前の準備から当日の運営、ネットワークキングのための場の設定まで細やかなお気遣いを頂き、心から感謝しております。本当にありがとうございます。

どれだけ大きなネットワークも、世界に影響を及ぼすようなムーブメントも、最初は小さな個人々のつながりから始まるのだと思います。今回の場合は、そんなつながりのための第一歩目でした。これから二歩目、三歩目を踏み出していくべく、広島でも継続的に考え、行動していきたいと思っております。



財団設立25周年記念事業のお知らせ

長崎平和推進協会は、4月1日で財団法人設立25周年を迎えます。協会のこれまでの活動を振り返り、また、今後の新たな平和推進の活動にどのように取り組んでいくかを考えていくために、いろいろな行事を企画しています。ぜひ、参加していただき、各行事を盛り上げていきましょう！

記念式典・記念講演・シンポジウム

- 日時＝4月18日(土) 午後1時30分～
会場＝原爆資料館ホール
- 記念式典 午後1時30分～
 - 記念講演 午後2時～2時45分
田上長崎市長「被爆都市の市長としての核兵器廃絶への思い」
 - シンポジウム 午後3時～4時30分
テーマ＝私の平和活動の原点
パネリスト＝中野華子氏（アジア青年平和交流事業参加者）
山崎翔矢氏（高校生一万人署名活動者）
富永弘美氏（平和案内人）
西岡由香氏（漫画家、平和宣言文起草委員会委員）
コーディネーター＝塚田恵子氏（NBCラジオ局アナウンス部部长）
※いずれも、自由に入場できます。

被爆体験継承シンポジウム

- 日時＝6月21日(日) 午後1時30分～
会場＝原爆資料館ホール
- テーマ＝被爆体験の継承をどうするか？
 - パネリスト＝継承部会、平和案内人、被爆二世の会、沖縄・広島で平和活動（継承活動）を行っている方などから選出予定
コーディネーター＝田崎昇氏

沖縄戦、広島・長崎の原爆被爆の体験者が高齢化し、その体験を次の世代に継承することが重要な課題です。沖縄・広島で継承にどのように取り組んでいるのか、シンポジウムでパネリストと会場に参加したみなさんと議論を深め、今後の活動の強化を確認しあいます。ぜひ、ご参加ください。

平和写真コンテスト

被爆地長崎から核兵器廃絶と平和を求める内容で、原則として長崎市内を撮影した写真を広く募集し、入賞した作品を表彰、展示します。

テーマ＝私の平和！

募集期間＝2009年5月1日～2009年11月10日（必着）

応募資格＝プロ・アマチュア問わずどなたでも応募可能です

募集部門＝一般の部（高校生以上）及び子どもの部（中学生以下）

入賞＝長崎市長賞（各1点）・長崎市議会議長賞（各1点）・協会理事長賞（各1点）・追悼平和祈念館長賞（各1点）・原爆資料館長賞（各1点）・佳作（各5点）

※一般の部・子どもの部ともに同じ

入賞者発表＝2010年1月（予定）

応募方法＝応募用紙に必要事項を記入し、写真の裏に貼付のうえ、事務局まで郵送して下さい。

問い合わせ・あて先＝〒852-8117 長崎市平野町7番8号

（財）長崎平和推進協会「25周年記念平和写真コンテスト事務局」
電話：095-844-9922

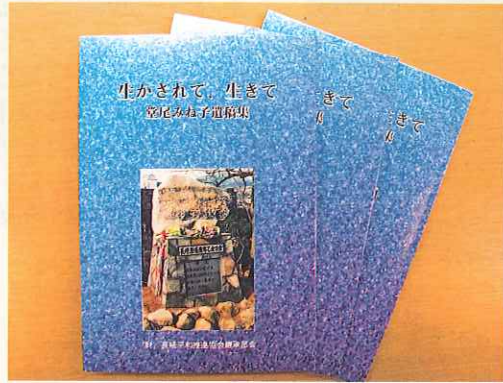
堂尾みね子さん遺稿集

「生かされて、生きて」刊行

協会の継承部会員として被爆体験講話などで活躍された堂尾みね子さんの遺稿集「生かされて、生きて」が3月に刊行されました。

この遺稿集は、堂尾さんのご遺族の方から継承部会の活動に活かしてほしいとして届けられた多額の寄付金や堂尾さんの手による随筆・俳句・短歌などの遺稿や原爆関連の図書、写真パネルなどの活用方法について継承部会で検討した結果、堂尾さんの遺志を引き継いでいくため遺稿集を刊行することを決定し、松添部会長をはじめとする総勢5名からなる編集委員会を立ち上げて刊行の準備を進めてきたものです。

堂尾さんの三回忌に合わせて完成した遺稿集は、A5判、96ページ、四部構成となっており、第一部には1995年に被爆者団体が発行した被爆体験集に堂尾さんが寄稿した自叙伝を、第二部、第三部には堂尾さんがノートなどに生前に書きためた原爆についてのメモやエッセイ、



遺稿集「生かされて、生きて」

俳句、短歌を、第四部には修学旅行などで堂尾さんの被爆体験講話を聞いた子どもたちの感想を掲載しています。

この遺稿集は、広く市民のみならず子どもたちに堂尾さんの遺志を知ってもらうため、県立図書館や市立図書館、市内の小・中学校に贈呈しました。また、この遺稿集は非売品で、部数も限られてはいますが、希望される方には特別にお譲りします。詳しくは事務局にお問い合わせください。

平和推進協会・追悼平和祈念館

パンフレットなどを刷新

協会では、その活動理念や事業内容を紹介し、会員の拡大を図るためにパンフレットを配布していますが、より多くのみなさんに手に取ってもらえるように全面的に刷新しました。

以前のものよりもコンパクトになった新しいパンフレットでは、親しみやすいデザインを採用し、活動理念や事業内容を協会のこと知らない人にも伝わるようにできるだけ詳しく丁寧に説明しています。

協会では、財団設立25周年を機に協会の活動を支えていただく会員のさらなる拡大に努めたいと考えております。会員になることで協会の活動への参加を強いられるということはありませんので、まだ会員になっていないだけではない方も、今回ぜひご加入ください。また、会員のみならずにおかれましても長崎発の「平和の輪」をより大きなものにするため、ご家族やご親戚、ご友人の方々にお勧めいただければと思っておりますので、

よろしくお願いたします。

また、追悼平和祈念館では、祈念館の場所や順路が分かりにくいとの声にこたえて施設案内のパンフレットをリニューアルするとともに子ども向けのパンフレットを新しく作成しました。さらに、祈念館や原爆資料館に設置している案内板についても、一部増設や改修を行いました。

これからも追悼平和祈念館の周知を図るとともに来館者の方に必要な情報を適切に提供できるように心がけてまいります。



協会パンフレット（写真上段）が必要な方は事務局にご連絡ください

国際交流部会、オバマ大統領に千羽鶴を送る



国際交流部会（吉田 睦子部会長）では、昨年10月に協会が主催した国連軍縮週間「市民のつどい」に訪れた日本人や外国人と一緒に折った折り鶴を千羽鶴にまとめ、メッセージを添えてバラク・オバマ米大統領に送りました。

同部会では、これまでも米国だけでなくフランス、インド、中国などの首脳に毎年千羽鶴を送っていますが、今回は、新政権の発足を機に核兵器の廃絶に向けた努力に対する期待を込めてオバマ大統領に送ることにしました。

同封したメッセージで、世界の平和維持における同大統領の指導力に希望を託しながら、核廃絶に向けての「変化=チェンジ」を期待する長崎市民としての気持ちを強く訴え、また、同大統領の長崎訪問を呼びかけています。

国際交流部会においては、今後もこのような活動を通じて、平和の大切さ、核廃絶の必要性を強くアピールしていくことにしています。

協会設立記念講演会

協会では、設立を記念した催しを毎年開催しており、今年は2月6日にアグネス・チャン氏を招いて講演会「みんな地球に生きるひと」を開催しました。

紛争や貧困の絶えない国々で、現地の人々と交流する日本ユニセフ協会大使としての活動などの自らの体験に基づいたお話は心に響くもので、平和の実現のためにたとえ微力であっても努力を続けていくという姿勢は協会の活動と共鳴するものでした。



健康講話、今年度も開催

昨年度は、長崎大学の高村教授をはじめとする諸先生方のご協力により追悼平和祈念館で、全10回の日程で身近な話題を中心とした被爆者健康講話を開催し、参加者のみなさんから大変ご好評をいただきました。

今年度も、6月頃から健康講話を実施するよう企画を進めています。詳しくは決定次第、祈念館のホームページや広報ながさきなどでお知らせしますので、ぜひ、ご参加ください。



会員数報告

◎維持会員	1,281名
◎賛助会員	175名
◎臨時会員	1011名
◎学生会員	現在
平成21年3月23日現在	

寄付者紹介

ありがとうございます

- ◎深澤 伸幸 一万円
 - ◎(財) 広島県相互扶助会 十万円
 - ◎水谷 敦夫 一万円
 - ◎林 キサ 五千元
- (敬称略)

会員のみなさまへ

日頃より協会の活動へのご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

協会の活動は、会員のみなさまからお預かりした会費によって支えられております。会員の方には、4月中に新年度会費の払込取扱票をお送りしますので、最寄りの郵便局で納入してくださいませようお願いいたします。

本紙は再生紙を使用しています。

平成二十一年三月三十一日発行
印刷 株式会社 昭和堂